

# 第34回 うつのみやこども賞だより

平成29年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『化けて貸します！

レンタルショップ八文字屋』

泉田もと／著（岩崎書店）



～読んだ本の感想より～

- ストーリーもおもしろいし、ドキドキするところもあって、よみあきない。
- 全体の話がよくつながっていた。
- みんなで協力してすごかった。
- とても成長しているな、と感じられて良かった。銀次にも最初と最後の変化がよく見えてよかった。
- 銀次さんも仲よくなれてよかった。
- たぬきと人間がいっしょになかよくできることが、いいなと思った。
- 全員タヌキなんてビックリした。近くにあったらいいなと思った。
- 文吉が頑張るって努力しつづけたからこそ、八文字屋のたぬき達と仲良くなれたんだと思う

『大林くんへの手紙』 せいのあつこ／著（PHP研究所）

- 手紙を書けない文香の気持ちに共感した。文香がどのように手紙をかくのを楽しみ。
- 文香が大林くんと仲がよくなっている所が感動した。
- 文香ちゃん達は、大林くんのためにあきらめずにがんばっていて感動しました。
- 大林君に五十嵐さん正直な手紙をいっしょけんめい書いている感じが伝わりました。
- 大林くんへ手紙をかく、という文香の心の変化がせんさいにかかれています、すごい、こんな表現、書き方があるのだなあと思った。

『十一月のマール』 戸森しるこ／著（講談社）

- レンの苦しむ気持ちがよく分かって、いい本だった。
- 思いもよらない展開が続いて、どんどん読んでいける感じでおもしろかったです。
- なんだか左ききの子の気持ちがわかった。左ききの子に視点があっていておもしろかった。
- とても複雑な家族関係だけどそれをのりこえて成長していくストーリーがおもしろい。
- 最初は悲しいお話なのかなあと思ったけど、だんだん波楽くんがヒステリーを治すために、気になっていることを解決していくという、スッキリする話だった。
- これを読んで、今までかたよったイメージだったものたちの見方が少し変わった。

『ひらけ蘭学のとびら』 鳴海風／著（岩崎書店）

- 伝記ですが、マンガの伝記とはちがう分かりやすさでした。玄白は家族を病気から助けられなかったのが、はげましてあげたいです。
- 玄白のぎもんの答えが気になりました。また、オランダの蘭学はすごいと思いました。
- むずかしいかな、と思ったけれど、杉田玄白さんの努力、情熱、蘭学について知れてたのしかった。
- だれかのためにという子どものころの思いが玄白を成長させたのだと思います。
- 玄白さんのおくさんが栃木出身と書いてあっておどろきました。

平成29年9月3日